



Specifications

■ 本体

システム構成	2 way 2 driver system
エンクロージャー	リアベント方式、Xマテリアル+Sマテリアル
ウーファードライバー	1 x 5.75 inch
ツイータードライパー	1 x 1 inch Silk Soft Dome
能率	86 dB@ 1 watt @ 1 meter @ 1 kHz
定格インピーダンス	8 Ω (最低インピーダンス 6.61Ω@172Hz)
許容最小アンプ出力	25W / channel
再生周波数帯域	65 Hz - 23 kHz @+/- 3dB Room Average Response
製品寸法	38 (h) x 22(w) x 26(d) cm
許容最小アンプ出力	20W / channel
製品質量	13 kg /pc

■ カラーバリエーション

スタンダードカラー	Carbon black , Quartz gray , Teak Brown
アップグレードカラー	Crimson Red , Ivory white



### Wilson Audio の原点とも言える「WATT」を超える小型モニタースピーカー

Wilson Audio のハイエンドスピーカーとしての大きな一歩は、1985年に設計された伝説的な「WATT (Wilson Audio Tiny Tot)」という小型モニタースピーカーです。

「Wilson Audio のチビ助 (Tiny Tot =チビ)」と名付けられたこのコンパクトモニタースピーカーは、スタジオエンジニアの仕事をしてきたデビッド・Wilson氏が録音現場に持ち込めるようにと創った、自身の仕事用のモニタースピーカーでしたが、その正確なサウンドステージの再現性から大きな話題となり、ついにはWilson Audioの代名詞とも言える存在となりました。

それから30年以上の時を経て、WATTを超えるWilson Audio史上最小サイズのコンパクトスピーカーとして、Tune Tot は生まれました。

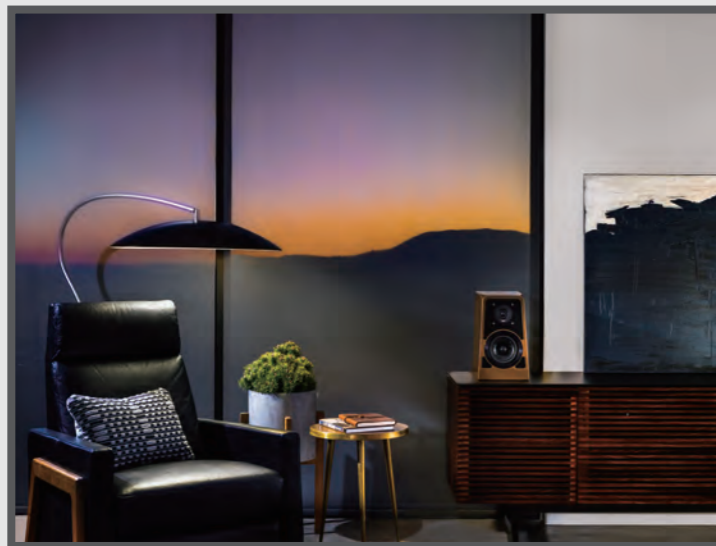
Tune Tot は、Wilson Special Applications Engineering (WSAE) チームにより作られました。

その繊細な美しさ、ダイナミックなニュアンス、サウンドステージの解像度、そして透明性を提供するように設計された Tune Tot には、現代の最新技術を施しています。

Wilson Audio の中でも Tune Tot は最小で最も安価なスピーカーですが、「初級レベル」のスピーカーではありません。

Tune Tot は、Wilson Audio の超弩級スピーカーである WAMM Master Chronosonic を手がける職人によって、まったく同じプロセスと技術を使い、愛情を込めて製作され組み立てられています。

コンパクトスピーカーではあるものの、Tune Tot は Wilson Audio の中でも大型サイズである ALEXIA2 や ALEXX などと同じくらい技術的および音楽的に正確です。



### Wilson Audio の最先端テクノロジーを全面的に踏襲しフリー&イージーセッティングを実現

Tune Tot のエンクロージャーには、Wilson Audio の全てのモデルに使用されている特許素材の超制振コンポジット材、X - マテリアルと S - マテリアルを使用。

向かい合う2面も平行ではない非対称形状を採用し、エンクロージャー内部の有害なレゾナンス(共鳴)を排除しています。

またエンクロージャー背面部にエアークラウドを設けることで5.75 inch ウーファーのリニアリティを十分に確保しています。

ウーファードライバーには敢えてパルプコーンを採用し振動系を軽量化。

ウーファーがリニアにしかも軽くドライブされることで小型スピーカーにありがちな重くて暗い低音とは無縁で、あたかも大型スピーカーが奏でるがごとくの軽やかでしかもソリッドなベースサウンドが大きな特徴です。

本体にはステンレス製のスパイクが付属しており、スパイクの高さ調整によりバッフル面の仰角を調整することで、Wilson Audio が最も重視するドライバー間のタイムアライメント調整を可能としています。



※オプションのウーファー・トリムリングとアイソレーションベース装着時

### オプションのアイソレーション・ベースを使用することでサウンドはさらに盤石に

Tune Tot はセッティングフリーの小型スピーカーですが、どんなスピーカーでも言えるように、設置する面の材質や特性が音質に大きな影響を及ぼすことは事実です。

スピーカーが置かれている家具や棚からの相互作用や反響は、耳に聴こえる歪みやカラーリングの原因になります。

Special Applications Engineering チームは、Tune Tot とその設置面の相互作用の調査に数ヶ月を費やしました。

Tune Tot は小型スピーカーのため、設置位置が典型的なフロアスタンド型スピーカーとは異なります。

そのような小型スピーカーの設置による様々な家具から生まれる共鳴に対処するために、一連のアクセサリが開発されました。

レベリングスパイクが付属しており、Tune Tot と接地面の間を離し、ドライバー間のタイムアライメントを調整することは前述でも説明していますがさらに重要なのがこれまでにない分離を可能にしたアイソレーションベースです。

設置面に十分な強度が無い場合や共鳴・共振がある場合には、専用のアイソレーション・ベース(別売)を併せてご使用いただくことをお勧めします。

アイソレーション・ベースは特許素材のコンポジットと合金のサンドイッチ構造で、Tune Tot 本体とベストマッチいたします。